

第3回教育研究内部質保証評価会議 が開催されました



PDCA サイクルに基づく質保証システムが適切に機能
教育研究活動の質が向上し保証されているとの評価

検証事項

- ①学生に対するアンケート結果（IR 室）
- ②教育活動の状況（教育機構）
- ③研究活動の状況（研究機構）
- ④学生生活支援活動の状況（学生生活支援機構）
- ⑤大学院の活動の状況（各大学院研究科）
- ⑥学修環境の状況（映像による紹介）

2025年2月28日、大阪医科薬科大学の教育研究活動の自己点検・評価の結果（内部質保証）を検証する第3回教育研究内部質保証評価会議が開催されました。この会議は、各学部の教員から選任される評価構成員と学外評価構成員（他大学の教員、行政・職能団体・産業界等の関係者、患者立場の方）が、本学全体における教育研究の内部質保証システムが適切に機能しているかを検証することを目的に、毎年度開催されています。今回の評価対象は2023年度の活動でした。

会議では、はじめに議長である佐野学長から本学の内部質保証システムと体制について説明があり、つづいてIR室、教育機構、研究機構、学生生活支援機構、各大学院研究科の

順に2023年度の活動状況とそれに対する自己点検・評価の結果が、それぞれの年報等に基づいて報告されました。

報告内容を受けて、評価構成員から主に次のことに関する質疑がありました。

- ・多職種連携教育（IPE）の実施状況
- ・教育成果のベンチマークの方針
- ・利益相反の研修状況
- ・不安や悩みを抱える学生へのサポート
- ・合理的配慮に関する取り組み
- ・看護学研究科におけるDNP (Doctor of Nursing Practice) 課程の開設

これらの項目に対する学長と機構長の応答も踏まえて検証が進められ、各機構・大学院の質保証に対する評価が行われました。総評

としては、各機構・大学院とも適切な活動が行われており、改善のための努力も行われているとして、大きな問題点の指摘はありませんでした。また大学全体の内部質保証システムについても、適切に機能しており、教育研究の質が保証されていると評価されました。

今後はさらなる改善のため、教育成果のベンチマークの検討と学生サポートの状況の検証に取り組むこと、また私立大学改革総合支援事業採択など本学の教育研究の成果や長所を社会に発信し、学生募集にもつなげていくことが優先課題と確認されて閉会しました。

なお、今回の会議の報告書は以下のリンク先で閲覧可能です。

https://www.ompu.ac.jp/about/internal_quality_assurance_2/f2pjgc000000ckzv-att/dr46sf0000003csh.pdf

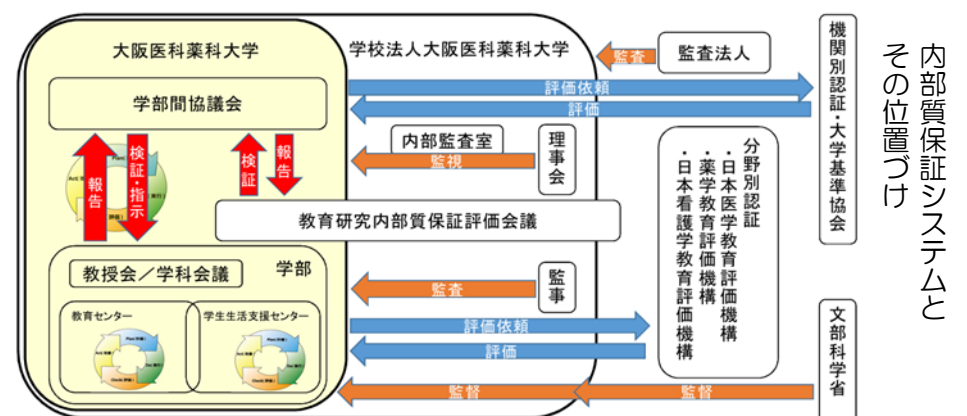
大学の質保証とは？ 内部質保証と認証評価制度

いま大学には教育研究活動の質保証が国から求められています。質保証が導入された背景として、学位の国際的通用性と18歳人口減少に伴う入試選抜機能の低下による学力への懸念、さらにグローバル化、ITの高度化、少子高齢化の変化による予測困難な時代において、受け身ではなく、学修者が自らの可能性を発揮できるような学修者本位の教育への転換が大学に要請されていることが挙げられます。

現在の質保証制度は、自己点検・評価による内部質保証と認証評価受審による外部評価の2種類で構成されています。その関係を簡単に説明すると、大学は継続的に自ら設定した評価項目にしたがって教育研究活動の自己点検・評価を行い（このプロセスを内部質保証と呼びます）、その内部質保証が機能して、教育研究活動が適切に行われ、さらなる質の向上を目指しているかを認証評価機関が審査し、適合しているか否かを評価するという関係になります。

大阪医科薬科大学では、各学部レベルと学部間協議会の下で行う機関レベルの2段階で自己点検・評価を行うことで大学全体の内部質保

証システムを構築しています（下図）。この内部質保証システム全体を評価するのが教育研究内部質保証評価会議です。また外部評価としては大学基準協会による機関別認証評価を7年以内、分野別では医学部が日本医学教育評価機構(JACME)、薬学部が薬学教育評価機構(JABPE)、看護学部が日本看護学教育評価機構(JABNE)の評価を7年以内のサイクルで受審しています。2024年度時点では、いずれの認証評価でも適合の評価を得ていますが、改善を指摘された点については内部質保証へフィードバックし、さらなる教育研究の質の向上に努めています。



大阪医科薬科大学

2025年 国家試験の結果

医学部 薬学部 看護学部

医師国家試験		薬剤師国家試験		看護師国家試験	
新卒合格率	97.9%	新卒合格率	86.8%	新卒合格率	98.9%
前年度	97.3%	前年度	89.5%	前年度	100.0%
全国平均	95.0%	全国平均	85.0%	大学全国平均	97.7%
既卒合格率	80.0%	既卒合格率	64.2%	既卒合格率	—
全体合格率	97.0%	全体合格率	81.5%	全体合格率	98.9%

2024 年度卒業生が 2025 年国家試験を受験しました（医学部新卒 95 人・既卒 5 人、薬学部新卒 265 人・既卒 81 人、看護学部新卒 89 人）。教育の質保証において注目される新卒合格率は、医師国家試験が 97.9%、薬剤師国家試験が 86.8%、看護師国家試験が 98.9%、保健師国家試験が 100.0%、助産師国家試験 100.0%でした。

保健師国家試験	
新卒合格率	100.0%
助産師国家試験	
新卒合格率	100.0%

総評 内山 和久 医学部長

本年の国家試験合格率は上段に示された通り、新卒 97.9%で、既卒者も入れた全体合格率も 97.0%とまずまずの出来となり、私が学部長に就任してからの 4 年間は比較的高位安定で推移しました。今年の新卒は 2 人が不合格でしたが、1 人は必修問題で 80%に満たず足切りとなり、非常に稀な結果でした。あとの 1 人は回答の写し間違いという失態と考えられ、不注意を惹起させない試験直前の精神的な支えを含めた対策の必要性を痛感しました。

総評 大野 行弘 薬学部長

薬剤師国家試験は、同試験の対策委員会を中心に様々な対策及び支援を継続的に実施しています。第 110 回薬剤師国家試験の合格者の総数は 282 名（私立大学 56 校中 5 位）、新卒者の合格率は 86.8%（全国平均：85.0%）、既卒者を含む全体の合格率は 81.5%（同：68.9%）と、昨年に引き続き高い合格率を維持することができました。また、薬学では入学者に対する標準修業年限卒業・国家試験合格率（ストレート合格率）が重視されており、そちらは 69.77%と概ね 7 割を達成することができました。

総評 鈴木 久美 看護学部長

ここ数年、看護師・保健師・助産師の国家試験合格率は 3 職種ともに 100%を維持していましたが、2025 年は惜しくも看護師の合格率が 98.9%となりました。それでも、大学新卒者の合格率を上回る高水準を維持しています。今年为国家試験の難易度については、必修問題は例年通りでしたが、一般・状況設定問題はやや難しく、合格基準 59.2%と 60%を下回りました。2024 年度の卒業生は国家試験対策の準備までに時間を要しましたが、最後の頑張りが見事であり、今年も優れた成績を収めました。

医学部 医学教育分野別認証評価(JACME)を受審

全国国公立 82 の医学部は、日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価を 7 年以内のサイクルで受審し、医学教育の質が国際基準に適合しているかを審査されます。大阪医科薬科大学医学部は、2018 年、第 1 巡目の認証評価を受審し、評価基準に適合であると認定されました（大阪医科大学医学部として。認定期間は 2019 年 2 月 1 日～2026 年 1 月 31 日）。現在、第 2 巡目の認証評価を受審しており、JACME へ自己点検評価書を提出し、2025 年 4 月 22 日～24 日に評価委員による実地調査を受けました。認定結果は、JACME からの通知があり次第、大学ホームページにて公開します。

大阪医科薬科大学医学部 医学教育分野別評価
<https://www.ompu.ac.jp/about/ompu/evaluation/field.html>
日本医学教育評価機構（JACME）評価事業 評価の概要
<https://www.jacme.or.jp/accreditation/index.php>

2025年度 IR 室の体制

IR 室長	学長	佐野 浩一
IR 室副室長	特務講師	栃澤 健史
IR 室担当教員	教授	宮崎 誠（薬学部）
	教授	安田 稔人（看護学部）
IR 室事務	課長	前野 真徳（薬学学務部教務課）
	主任	村上 公子

IR 室 本部キャンパス 新講義実習棟 P304
IR 室代表：ir-ompu@ompu.ac.jp